

題 目

インターネット型大学院におけるオンラインオリエンテーションの改善提案 学習者の立場から

要 旨

本研究は、熊本大学大学院教授システム学専攻のオリエンテーション科目の改善提案を学習者の立場からまとめたものである。学習者の立場で本専攻の2008年度と2009年度のオリエンテーション科目の変化を比較検討し、国内外の大学でのオリエンテーションや導入教育について調査し、本専攻のオリエンテーション科目にはないものや、あれば良いと思うものを整理し、本専攻向けに作り直し、改善提案をまとめた。本研究の背景には、現在日本の多くの大学では入試方法や入学者の多様化に対応するため、導入教育への関心が高まっていることが挙げられる。さらに、本専攻では、遠隔教育である上に、日本では珍しいカリキュラムを導入しており、学生は二重の意味で、学習環境に慣れる必要がある。また、過去に通信制大学で学んだ経験、本専攻を海外で受講した経験を通し、オリエンテーション科目の重要性を感じていたため、今後の入学生がより良い環境で学習のスタートができるよう、オリエンテーション科目について分析したいと思ったからである。本研究では、国内の事例に加え、海外の大学調査では特に韓国・中国に焦点を当てて調査を行った。東アジアでインターネットの最先端である韓国、ネット人口トップをいく中国は地理的距離や文化背景も近く、両国の事例を参考にすることは、日本人にとって馴染みやすいと考えたからである。調査の結果、先輩学生のつづやき、学習奨励週の日程表、動機チェック表、知識管理チェック表等に学習効果を感じ、本専攻向けに作成し直し、オリエンテーション科目の改善提案を行うに至った。改善提案を具体化して紙プロトタイプを作成した。評価方法としては、教材作成者である教員にインタビューを行い、過去のオリエンテーション科目の学習経験者である学生・同窓生にプロトタイプ使用後のアンケートを実施した。今後の課題としては、2010年度入学の5期生にオリエンテーション科目終了後アンケートを実施する。更に企業の入社前教育や国内外の事例を集め、それらとアンケートの結果を踏まえ、提案内容を再検討し改善していくことを述べた。